

〈史料紹介〉

異本『長門守護代記』の紹介

田 村 哲 夫

『長門守護代の研究』については、当館研究紀要第1号（昭四〇刊）に発表した。その後の昭和五年度に山口県古文書等所在確認調査が実施された時、長門市仙崎の南野光子氏所蔵『長門国司守護代記』と、萩市堀内の岡誠作氏所蔵『防長兩國温知録所収長門国国司守護職歴代之記』とが見つかつた。前書を南野本長門守護代記、後書を岡本長門守護代記と仮称する。両書の記述を従来から知られた長門守護代記と比較したところ、異本的要素が多分に見えるので、その記述中で新記述と思われる部分には傍線を引いた。今後その記述内容については再検討を加える必要がある。特に建武中興時における長門守護職を二条輔大納言師基としている点、厚東氏歴代の記述部分は注目に値する。

長門国司守護代記(南野本)

長門国国司守護職歴代之記(岡本)

当国豊浦之都者、仲哀天皇二年癸酉被立之、仲哀九年庚辰神功皇后六拾九年己丑、応神天皇四拾壹年庚午、三帝城仁徳天皇元年癸酉被移難波城

長門国平家以往守護職云云、元者号押預使職也

豊西郡司三代

第一 貞平

第二 秀盛

第三 広基

第四 豊東郡司元家

第五 厚東郡司武光

厚東家八代(七) 武晴長子
任郡司 法名念西

承久之比源平逆之時、籠厚東郡霜降城、此時厚

東内四ヶ御領家職

第六 安芸守平清盛

知盛知行

第七 厚東郡司武景

厚東家八代 武光長子
任長門守 法名舜尊

当国押預使職惣追補使職者厚東家重代所職也

寿永元曆比賜院宣御下文畢

第八 三河守源範頼

人皇八十二代後鳥羽院文治元年十一月右大将源頼朝、為天下総追捕使、国々始置ニ守護地頭ニ
参河守源範頼

範頼没収之跡地頭職御地行、被任佐渡守

右大将頼朝弟号ニ浦冠者、建久四年秋八月依ニ讒言頼朝殺之、大津郡三隅村墳墓アリ

第九 土肥次郎実平

号惣追補使職

代官土岐次郎

土肥治郎実平

葛原親王十一代ノ後胤中村庄司宗平ノ男、範頼没収ノ後地頭職ヲ承リ、被レ任ニ佐渡守ニ、居ニ長居士肥山ノ城ニ

第十 佐々木四郎左衛門尉高綱

佐々木四郎左衛門高綱

自大将殿文治貳年賜守護職、午七月十三日下国

宇多天皇ノ後胤兵部丞源秀義四男仕ニ頼朝ニ、而相山ノ前駆宇治川ノ先陣其外軍功多シ、正治二年庚申七月十

三日為ニ守護職ニ当国下向、後北陸道ヲ賜ル、猶以不足トシテ粗逆意アリ、有レ故而出家高野山ニ住ス、後帰ニ依親鸞一名ヲ了智坊ト云、住ニ越後国松本正行寺、即浄土真宗旧跡ノ地ナリ

第十一 佐々木太郎判官貞綱

檢非違使左衛少尉
高綱舎兄也

佐々木太郎判官貞綱

兵部丞秀義ノ嫡男、高綱ノ舎兄ナリ、兄弟トモニ有ニ軍功ニ、被レ任ニ檢非違使左衛門尉ニ、豊浦郡黒井一ノ瀬村墳墓アリ

守護代横次公久 貞綱甥也

第十二 佐々木左衛門尉広綱 任判官

佐々木左衛門尉広綱

第十三 薩摩守公業

承久三年辛巳七八九三ヶ月知行

貞綱甥被_レ任_二判官_一、承久三年与_二後鳥羽院上皇_一伐_二北条義時_一而不_レ克、被_二梟首_一、
以上源家支配
薩摩守公業

第十四 天野和泉守政景

貞応元年壬午賜之

承久三年辛巳歳北条義時命_レ之、同年七八九三ヶ月知行_一、
天野和泉守政景

代官小田村左衛門尉(光兼)

第十五 天野新左衛門尉義景

天野新左衛門義景

代官大坂土左衛門尉康親(家)

第十六 二階堂信濃四郎左衛門尉行忠

代官三井官内左衛門資平

二階堂信濃四郎左衛門尉行忠

第十七 北条相模修理亮宗頼

建治貳年丙子正月十一日当国下着

右大臣不比等一男左大臣武智麻呂四男參議乙麻呂十七代後胤、紀伊權守行盛三男ナリ
北条相模修理亮宗頼

第十八 北条越後守兼時

代官太郎頼茂

北条時頼六男、建治二年丙子正月十一日当国下向

弘安三年庚辰六月十五日当国着

代官長井出羽太郎

第十九 北条武藏守師時

弘安四年辛巳閏七月晦日当国下着

代官岡田治郎左衛門尉淨速

代官駿河次郎

北条武藏守師時

北条時頼三男武藏守宗政男、弘安四年辛巳閏七月卅日当国下向

第二十 北条十郎忠時

弘安五年壬午八月廿四日当国下着

代官平内左衛門尉

北条十郎忠時

弘安五年壬午八月廿四日当国下向、号_二万寿寺殿_一

第二十一 北条上総介真政

弘安七年甲申正月十七日下国、又九州探題

代官嵐野五郎左衛門尉宗盛

北条上総介真政

守護代平岡治郎左衛門尉為時

第二十二 北条左京権太夫時村

永仁六年戊戌八月十一日着府

代官左近太夫将監時仲後任近江守又尾張守

守護代吉良氏

守護代小笠原入道蓮念

北条左京権太夫時村

永仁六年戊戌八月十一日当国下向、嘉元三年四月為_二北条宗方_一殺サル、宗方モ又為_二貞時_一殺サル

第二十三 北条上野介時直 真政舎兄也

守護代横溝小三郎清村

北条上総介時直

上総介真政ノ舎兄、初メ遠江守ト云、後任ニ上野介

以上北条家支配

第二十四 二条輔大納言師基

守護代山田入道了恵

二条輔大納言師基 守護代山田入道了恵

九十六代光厳天皇正慶二年北条滅亡シテ後天皇置レ之玉フ

第二十五 厚東太郎武実

厚東家十四代 武仲長子
法名崇西

厚東太郎武実入道 法名崇西ト号

元弘逆乱之時依帝王万而当国守護職拜領

建武元年甲申五月十四日府中入部

厚東家十四代ノ孫、武仲ノ長子ナリ、往昔当国押預使

ノ職厚東家重代所職ナリ、寿永元暦ノ比院宣御下文ヲ

守護代富永弥六入道

賜フ、元弘逆乱ノ時属ニ帝王御方ニ、因テ当国守護職ヲ蒙ル、建武元年甲戌五十四奉ニ行之一

第二十六 厚東駿河守武村

厚東十五代 武実長子
入道法名崇田

厚東駿河守武村

元弘年中規矩郡拜領、又貞和四年戊子

当国守護職賜之

入道武実ノ長子、長府四皇子山ノ城主、貞和四年戊子

三月五日賜ニ守護職、貞和五年己丑年大内弘世ト戦フ

守護代富永太郎左衛門尉武通 後任備前守

テ討死ス

第二十七 足利右兵衛佐直冬

貞和五年己丑二月十一日当国入部

足利右兵衛佐直冬

代官仁科左近大夫将監

代官 仁科左近大夫将監盛景
守護代 柳田太郎左衛門尉

守護代柳田太郎左衛門尉

第二十八

厚東長門守武直 厚東家十六代
武村嫡子

觀応二年辛卯十一月十二日府中入部

守護代富永備前守武通

厚東長門守武直

武村ノ長子、觀応二年辛卯十一月十二日賜ニ守護職、

同三壬辰年大内弘世ト戦テ敗ニ走北国、加賀国ニテ卒

第二十九

厚東長門守義武 厚東家十七代
任左衛門尉 武直嫡子

文和三年丙午二月三日入部

守護代富永備前守武通

厚東長門守義武

武直ノ長子、文和三年甲午二月三日補ニ守護職、永和

四年戊午大内義弘ト戦テ不ク終ニ降参、此時家滅亡ス

第三十

大内介弘世 正六位上 從五位上 四位少将
周防権介 修理大夫 入道道階
弘幸嫡男 防長石三州太守
多々良姓十九代

厚東駿河守武村逝去之後、子息長門守武直、

其嫡子左衛門尉義武迄七箇年之間当国守護

職雖所持、依于時節而道階種々以謀計、厚

東義武并守護代富永備前守武通・同又治郎

武顯其外一族類葉悉打亡畢、此時厚東十七

代滅亡也、從此時長州為大内守護職、文和

四年乙未入国也

大内介弘世

正六位上周防権之介ヨリ從四位上修理大夫ヲ歴テ四位

少将トナル、入道道階ト号

大内氏ハ其先百済国馬韓裔明王第三皇子名ヲ琳聖太子

ト云、欽明天皇ノ御宇百済国ヨリ誘来ル、七世ノ孫正

恒始テ賜ニ多々良姓ニ大内ト称ス、治承年中与ニ源頼朝

功アリ、周防山口ニ住シテ累代繁栄ス、十七代ノ孫大

内介弘世是ナリ、屢厚東家ト戦テ終ニ悉ク討ニ亡其一

族類葉、文和四年乙未長門守護職トナル、蓋周防長門

守護代森入道良惠

石見三州ノ大守ナリ

正平十三年戊戌六月廿三日入部

守護代宮川入道良覺

守護代杉亦治郎知静

守護代黒川近江守貞信

守護代陶宮内少輔弘綱 任後周防守

守護代杉入道知静

第三十一

大内左京権太夫義弘 從四位上 防長石豊四州

大内左京権太夫義弘

四位少将、是者南帝御和平使之時俄被叙云

云、又明德合戦之依忠勤而和泉紀伊拜預云

云、和泉堺合戦之時一方大将陶筑前守弘護

也、此時義弘天下挙名也

永和元年乙卯三月廿一日当国下着

守護代杉信濃守重直

守護代杉大炊助儀安 後号对馬守

守護代久保備前入道源祐

守護代杉亦四郎範安 对馬守子息

第三十二

大内介弘茂 任散位 義弘二男

大内介弘茂 義弘ノ二男、任三位

守護代陶山佐渡守高長

小守護代赤崎三郎左衛門道清

第三十三

大内六郎盛見

從五位下 從四位下 防長豊筑
太守 周防守 修理大夫 入道
徳雄

大内六郎盛見

弘茂舍弟、從四位下周防守ヨリ至ニ從四位下修理大夫ニ

防長豊前筑前四州ノ管領ナリ、後入道シテ徳雄ト号ス

応永八年辛巳十二月廿六日自ニ豊後国ニ渡海ノ時、長府

四皇子山城主行方備中守秀具与ニ力豊田滋武ニ拒レ之、

於ニ毘沙門堂ニ合戦ス、盛見悉ク敵ヲ討捕、同所於ニ律

成寺ニ越年、翌九年正月九日討ニ豊田滋武ニ長生寺ノ城

ヲ攻落シ入ニ防州山口ニ

小守護代江良太郎左衛門広慶

小守護代陶治部少輔盛長 道琳養子

小守護代陶徳房 盛長子息

小守護代安岐大炊助盛輔

守護代内藤肥後入道知得

知得依在京而子息弾正忠盛賀、応

永八年辛丑二月十一日長州入部也

小守護代勝間田左近将監盛実

第三十四 小守護代勝間田孫六盛益
大内介持盛(後)上六位上行 防長豊前筑前太守
周防権介

大内介持盛

永享四年壬子三月十八日從豊前朽田之陣山
口入部、同月長州入部也

守護代陶越前守盛政

小守護代安岐大炊助盛輔

第三十五 大内修理太夫持世 從五位上、從四位下 刑部
少輔 防長豊筑太守

大内修理太夫持世

永享四年壬子三月十五日從石州山口入部

同年四月廿二日長州入部也

守護代鷲頭肥前守盛範 又後政後弘忠

義弘ノ男、持盛ノ兄ナリ、自ニ從五位上刑部少輔ニ至ニ
從四位下修理太夫ニ、防長豊筑前四州管領ナリ
永享四年壬子三月十五日自ニ石見國ニ入ニ防州山口ニ

小守護代円山因幡守入道道源

同月長州入部

小守護代左馬助兼連

永享六年甲寅八月入部

小守護代有吉伊賀入道浄仙

永享七年乙卯正月七日入部

小守護代野田民部允為弘 後任備前守

永享九年丁巳三月入部

第三十六 大内左京太夫教弘

大内左京太夫教弘

從四位上行 贈從三位下行
持世養子、実持盛二男也
防長豊前筑前四州太守

嘉吉元年辛酉八月日山口入部

守護代鷲頭肥前守弘忠

同年九月長州入部

文安四年丁卯八月十七日於山口父

子被打

小守護代野田備前守為弘

文安三年丙寅四月十五日入部

小守護代野田治部丞弘賀 為弘子息

文安四年丁卯三月二日入部

守護代内藤濃州入道有貞 知徳二男

文安四丁卯九月入部

小守護代南野左馬允盛時 後任若狹守

同年同月廿四日長州入部

守護代内藤下野守盛世 濃州二男

享徳三年甲戌十一月長州入部

小守護代南野若狹守盛時 後ニ成時改

小守護代南野縫殿允盛通 盛時息
寛正六年乙酉四月朔日從筑山殿賦
(大内教弘)
大膳進盛鎮也

第三十七 大内介政弘 從四位上下 左京大夫
防長豊前筑前四州太守

寛正六年乙酉十月廿六日山口入部

大内介政弘

守護代内藤下野守盛世
同年十一月長州入部

教弘ノ男、幼名龜童丸、從四位上行左京大夫、防長豊
筑前ノ大守、中国管領ナリ、寛正六年乙酉十月廿六日
執_二国務_一

小守護代南野大膳進盛鎮

守護代内藤中務丞武盛

小守護代南野大膳進盛鎮

守護代内藤弥七弘矩 後任彈正忠

文明四年壬辰八月十一日長州入部

小守護代南野大膳進盛鎮

小守護代厚安芸守

小守護代永富因幡守嗣久

小守護代永富彦左衛門尉貞嗣 嗣久息

第三十八 大内周防介義興 從四位上行 從三位 左京大夫
防長豊前筑前備前芸七州太守

大内防介義興

將軍足利義植公之時天下權職管領也

政弘ノ男、從四位上行、從三位、左京大夫、防長豊筑

明応二年癸丑五月山口入部

守護代内藤肥後守弘矩

同年六月長州入部

小守護代永富彦左衛門尉貞嗣

小守護代永富五郎矩詮

守護代内藤掃部助弘春

明応六年丁巳九月五日守護代職賜

之、則長州入部

小守護代勝間田左近矩益

明応六年丁巳十二月入部

小守護代永富五郎矩詮

守護代内藤彦太郎興盛 任彈正忠
又賦下野守

文龜三年癸亥十月十四日長州入部

小守護代勝間田大炊助春運

小守護代勝間田与一盛家

第三十九 大内太宰大貳義隆 從四位下 從二位 大宰大
貳 周防介 左京大夫
納言 兵部卿

大内太宰大貳義隆

(享禄二年己丑ノ誤ナラン)
永正十五年戊丑十月五日山口入部

義興男、自_二從四位下周防介左京大夫_一至_二二位太宰大貳
大納言兵部卿_一、防長豊筑前備後安芸石見七ヶ国大守、

守護代陶尾張守隆房 後改晴賢入道全
 妻 永正十五年戊丑十一月長州入部
 小守護代南野兵庫允盛種 後ニ盛遠改
 守護代内藤下野守興盛
 天文十二年癸卯十二月廿二日長門
 入部
 小守護代勝間田左近盛家
 同年入部
 小守護代勝間田孫六盛治
 天文十七年戊申正月入部

龍福寺殿ト号ス、永正十五年戊寅十月五日執ニ國務ニ、
 嗣ニ父義興之緒ニ權威震ニ西國ニ、山口ノ繁華優ニ京師ニ、
 然政道貪戻ニシテ驕奢最甚シ、臣下恨多ク庶民愁訴止
 コトナシ、天文廿年辛亥八月家臣陶尾張守隆房企ニ反
 逆ニ超レ兵討レ之、義隆山口ヲ没落シテ欲レ憑ニ豊後大
 友義鎮ニ、走ニ長州仙崎ニ買レ舟、于レ時難風厲シテ絶ニ渡
 海ニ、九月朔日入ニ深川邑大寧寺ニ、敵追レ跡攻来ル、終
 ニ於ニ同寺ニ自殺ス、大内家廿七代於レ此滅亡ス

橋姓南野氏家系

橋諸兄十五代師秀末葉
 南野 左近將監
 宗政 住尾州南野故以
 邑名為稱号
 時忠 左近將監
 盛光 助次郎
 為尾張國牧
 野相模國北
 畑庄守護

大内左京大夫義長

豊後国大友義鎮入道宗麟弟ナリ、陶隆房迎レ之嗣ニ大内
 家ニ、隆房改レ名晴賢ト号、天文廿一年壬子三月執ニ國
 務ニ、弘治元年乙卯九月卅日毛利元就公戮ニ陶尾張守晴
 賢ニ、敵嶋ニ於テナリ、同三丁巳年向ニ山口ニ、義長走
 長門府ニ、元就公使レ將逐レ之、義長於ニ長福寺ニ自殺、
 長福寺ハ即チ今ノ功山寺也

毛利元就公

貞重 兵庫頭
 内藤肥後守盛貞入道智得立大内盛見持世之二君、以

興大内家、因茲盛貞在京故賜息美濃守有貞於長門國
 守護代、此時貞重供奉而遂諸沙汰者也

弘治三年司ニ國務

守護代 内藤左衛門大夫隆春
 小守護代 勝間田孫六郎春景
 永祿五年壬戌九月十九日毛利隆元公補ニ長門守護職ニ
 慶長五年庚子輝元公秀就公賜ニ防長ニヶ國之封券ニ
 以上 以後毛利家代々為ニ所領ニ也

